

◆森將軍塚古墳館 H9(1997)年に 開館



展示内容



森將軍塚古墳「石室」の再現

→【石室の保存】

現地の石室は発掘後、砂によって埋め戻し内部を見ることはできません。そこで、埋める前にシリコンゴムで型取りをして造りあげた原寸大の精密な**模型(レプリカ)**です。

中央が**「竪穴式石室」**、その中に木棺があり、「古墳の主」が埋葬されていたわけです。

この**石室は「日本最大級」**(長さ4番目、広さ1番)。石室の周りには石積み**墓壇(こう)**が2重に巡らされています。



→【埴輪について】

- ・ お墓のお供え。「神聖な場所」を区分する意味もあった。(弥生時代は日常生活で使う土器のお供えだったが、「お供え専用の土器」が作られるようになり、その後「埴輪」に変化)
- ・ 大型・ 三角形の穴(透孔=とうこう)が沢山あいている。
- ・ 板で(縦に)なでつけた跡・ベンガラで赤く塗られている。
- ・ つぼ型・円筒・朝顔形・合子(ごうす・蓋付きの入れ物)形・家形埴輪が見つまっている。



→【副葬品】(殆どなし)

三角縁神獸鏡：中国製、青銅の鏡。

(邪馬台国の女帝、卑弥呼が魏の皇帝より100個贈られたうちの1つ)大和王権から全国各地の王に、政治的な関係を結んだ証として与えられたと考えられているが、**長野県では唯一のもの**。

(…卑弥呼の時代と100年以上もギャップがあり、不明な点も多い)